

ガーナでお絵描き  
くれよん プロジェクト 60号

活動再開から間もなく二か月になります。学校では、子どもたちにマスク着用が声かけられています。が連日三十度越えの日々、子どもたちは常にマスクを着用している事など出来ないのです、そこは私がしっかりと自己防衛をして授業をおこなっています。今回、くれよんを使った授業は『作ってあそぼシリーズ』で、アイスクリームけん玉と魚つりゲームを作った後に遊びました。アイスクリームけん玉は、紙コップけん玉を発展させたもので、色画用紙にアイスクリーム屋さんのパッケージをくれよんで描きました。作業工程が少し難しいところもあるので、取り組みをしたのは5年生と6年生です。各学年とも担任も参加して一緒に楽しみました。この学校で若い先生を育成するという私自身の目標があり、こうして先生が参加し一緒に楽しんでくれると、先生育成の実践にもつながりともうれしく思います。魚つりゲームは、4年生の取り組みで予め私が切った魚とイカの形をした薄地のプラスチックファイルに子どもたちがそれぞれ模様をつける作業をしました。『作ってあそぼシリーズ工作』はこれまで、紙コップとストローとビニール袋でムクムクというおもちゃを作ったり、パラシュートを作ったりとどれも子どもたちに大人気で、くれよんはムクムクの時は紙コップとビニール袋に絵を描き、

パラシュートの時は、パラシュート本体の絵付けに使いました。くれよんを使う授業はもちろんの事、併せて工作をするとなると子どもたちはとてもうれしいようです。低学年が授業でくれよんを使えるようにと、学校に預けたくれよんがあるのですが、絵を描く紙の購入資金が学校には無いため（テストなどは紙代としてお金がかかります。）私が紙を学校に持って行かない限り絵を自由に描けないでいる課題があるものの現実問題です。くれよんを若い先生にきちんと管理しているかを確認した時の事、机に置かれたくれよんを見た低学年の男の子が手に取り「カラーだ。」とうれしそうにつぶやいたのを複雑な思いで見っていました。低学年の子どもも自由にお絵かきが預けたくれよんで出来ることを模索中です。

報告日 2021年3月13日 TOSHIO

